

Title	VI.広報活動
Author(s)	平井, 啓久
Citation	霊長類研究所年報 (2007), 37: 102-104
Issue Date	2007-07-31
URL	http://hdl.handle.net/2433/166458
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

2006 年 11 月 11 日～12 月 28 日

事業番号 61, 派遣 (共同研究)

中村美知夫 (京都大学理学研究科動物学教室・助手)
ボッソウ 30 周年国際シンポジウム参加
ギニア

2006 年 11 月 24 日～12 月 2 日

事業番号 62, 招聘 (若手 PGM)

Tony Tosi (ニューヨーク大学・研究員)
若手研究ワークショップ参加
アメリカ

2006 年 11 月 2 日～11 月 12 日

事業番号 63, 招聘 (若手 PGM)

Taranjit Kaur (ヴァージニア工科大学・助教授)
飼育チンパンジー行動観察, 学術大会及び研究連絡
アメリカ

2006 年 11 月 2 日～11 月 8 日

事業番号 64, 派遣 (若手交流)

Zhang Peng (京大霊長研・大学院生 DC)
Grooming relations within one-male harems of the
Sichuan snub-nosed monkey (*Rhinopithecus roxellana*) in their
nature habitat.

中国

2007 年 1 月 8 日～1 月 25 日

事業番号 65, 派遣 (共同研究)

M.A. Huffman (京大霊長研・助教授)
スリランカ霊長類 4 種の広域分布調査及びトクモン
キーの社会生態学的研究
スリランカ, インド

2007 年 2 月 2 日～3 月 1 日

事業番号 66, 派遣 (共同研究)

古市剛史 (明治学院大学国際学部・教授)
野生チンパンジーの文化的行動の比較研究
アメリカ

2006 年 3 月 22 日～3 月 28 日

事業番号 67, 派遣 (共同研究)

林田明子 (岐阜大学大学院連合獣医学研究科・大学院
生 DC)
東南アジアに生息するリス科の頭蓋に見られる機能
形態学的比較

アメリカ

2006 年 3 月 16 日～3 月 29 日

(文責: 遠藤秀紀)

VI. 広報活動

霊長類研究所では広報委員会が主体となって, オープンキャンパス (大学院ガイダンス), 公開講座, 市民公開などの催しを通じて研究所の活動を一般の方に紹介するよう努めている。また, 研究所年報, リーフレットの作成, ホームページの公開などの広報活動も行っている。

1. オープンキャンパス: 大学院ガイダンス (第 4 回)

大学の学部学生 (2,3,4 年生) をおもな対象としたオープンキャンパスを, 2007 年 2 月 22 日 (木)～23 日 (金) に開催した。各分野・センター・施設の教員による講義, 所内見学, 各分科教員との懇談会, さらに大学院生・研究員等も参加した懇親会が行われた。参加者は 37 名だった。

< プログラム >

2007 年 2 月 22 日 (木)

松沢哲郎 (所長) 「開会の挨拶」

松井智子 (大学院世話役副議長) 「大学院入試に関するガイダンス」

講義 1 景山節 「サル類の健康と病気」

講義 2 田中洋之 「マカクザルコロニーの集団遺伝学的研究」

所内見学 1

講義 3 半谷吾郎 「霊長類の密度を決めるもの」

講義 4 室山泰之 「里のサルたちについて考える-野生動物管理学入門-」

講義 5 橋本千絵 「ボノボとチンパンジーの性行動について」

講義 6 田中正之 「チンパンジーの認知発達」

各分科教員との懇談会 1 (希望者のみ)

懇親会

2007 年 2 月 23 日 (金)

講義 7 正高信男 「言語の起源と音楽」

講義 8 宮地重弘 「行動決定, 行動発現の脳内メカニズム」

講義 9 林基治 「サルの脳の発達加齢を分子レベルから探る」

所内見学 2

講義 10 今井啓雄 「ポストゲノム時代の霊長類研究」

講義 11 毛利俊雄 「ニホンザルの矢状稜」

講義 12 高井正成 「サルの生まれた日: 霊長類の起源と

進化」
質疑応答（講演者全員）
各分科の教員との懇談会2（希望者のみ）

2. 公開講座（第22回）

一般の方に霊長類学を体験していただくため、毎年8月後半に公開講座を開催している。霊長類学に興味を持つさまざまな年齢と職業の受講者に、研究所教員が、それぞれの専門分野についてわかりやすく講義を行う。また、どのようにデータをとっているのか、どのような実験をしているのかを知っていただくため多様な実習を企画している。今年度は、8月24日と25日の2日間にわたり、以下の講義と実習を行った。日本全国から64名が参加した。

公開講座「サルから学ぶ」
2006年8月24日（木）～25日（金）

<プログラム>

講義：8月24日（木）会場：霊長類研究所
松沢哲朗所長「所長挨拶、説明」
室山泰之「危機に瀕している霊長類：霊長類の保全と管理」
川本芳「種をめぐる二つの話題：マカクの新種問題と外来種問題」

講義：8月25日（金）会場：霊長類研究所
大石高生「脳損傷からの機能回復：もう一度じょうずにつかめるように」
三上章允「前頭葉と記憶：思考過程で使われる記憶はどう処理される？」

実習：8月24日（木）及び25日（金）会場：霊長類研究所
下記の5科目から、1日1科目を選択して実習を行った。

「形態学」	遠藤秀紀
「心理学」	友永雅己、田中正之
「遺伝学」	田中洋之
「野外行動観察」	室山泰之
「脳科学」	三上章允

3. 市民公開（第17回）

研究所の活動をより良く理解してもらうために、犬山市の近隣市町村に在住の方々に対して研究所の施設

ならびに研究内容を紹介する、市民公開日を設けている。今年度は10月29日（日）に開催し、31名の参加があった。

<プログラム>

2006年10月29日（日）
（総合案内：鈴木樹理）
松沢哲朗「所長挨拶」
講演：松林清明「ニホンザルの特性と研究への貢献」
所内見学：遠藤秀紀（資料展示室）、松沢哲朗（チンパンジー）、渡辺邦夫他（第4放飼場：善師野キャンパスで建設中の森林を維持した放飼場を理解してもらうために、同じデザインである第4放飼場でのニホンザル飼育状況等を説明した）

4. 東京公開講座（第5回）

2002年度より、霊長類学の研究成果を一般社会に知っていただくため、東京圏で市民向け公開講座を開催している。今年度は、9月16日（土）に、東京・台場の日本未来科学館において、京都大学霊長類研究所・東京公開講座「ラボからフィールドまで」を開催した。171名の参加があった。

<プログラム>

2006年9月16日（土）13:00-17:00
（司会：田中洋之）
松沢哲朗「所長挨拶」
松沢哲朗「人間の心の進化的基盤」
鈴木樹理「飼育下のサルの病気と健康管理」
毛利俊雄「側頭筋は咀嚼筋？」
橋本千絵「性行動から何がわかるか～ボノボ・チンパンジーの観察から～」
質疑応答

5. ホームページ

<http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/index-j.html>
広報委員会は情報システム整備委員会と協力して研究所ホームページを開設し、インターネットを通じても研究・教育活動の紹介を行っている。年報や自己点検評価の結果などもホームページ上で公開している。

6. 研究所見学者

2006年度の研究の見学者は以下の通りである。

9月21日 城東小学校教員2名および2年生20名

広報委員会：田中洋之(委員長)，平井啓久，渡
邊邦夫，三上章允，鈴木樹理，松永裕之(総務掛長)
(文責：田中洋之)

VII. 自己点検評価委員会報告

例年通り業績データベースや研究概要データベース等を基に年報を作成した。

平成 18 年度は外部評価を受けるための自己点検データを収集した。現況(組織，予算，土地・建物，サル類・標本・図書)，研究成果(1996-2006 の 10 年間の学術論文業績ならびに栄誉)，研究・体制(1996-2006 の 10 年間の教員の動向-流動部門や寄附研究部門の導入と任期制，大学院生の動向，日本学術振興会特別研究員，非常勤研究員，RA・TA，全学共通教育，学部教育，予算，飼育サル，図書)，共同研究(共同利用研究，日本学術振興会先端研究拠点事業(HOPE)，21 世紀 COE 拠点形成費補助金，RRS 計画と NBR 受託事業，海外学術交流)，広報と情報公開(公開講座(犬山，東京)，市民公開日)，英文業績リスト，の点検項目を詳細に調査した。収集データを冊子体にまとめ，依頼した 15 名の外部評価委員に意見をもとめた。外部評価委員の評価と指摘ならびにその指摘に対する研究所の補足回答を加えて，冊子体「外部評価報告書」として印刷公表した。

自己点検評価委員会：平井啓久(委員長)，上野吉一，
杉浦秀樹，田中正之，相見満，松沢哲郎(所長)
(文責：平井啓久)